

福島県建築関係工事特記仕様書	福島県〇〇建設事務所建築住宅課 電話〇〇〇-〇〇〇〇 FAX〇〇〇-〇〇〇〇 住所 〇〇市××町△△1-1		建築士事務所名	工事名称		
	設計年: 令和〇〇年〇〇月		設計者氏名	印	図面名称	機械設備工事特記仕様書(1) 図面番号

1. 給排水・衛生・暖冷房・空調設備

項 目		試 験 時 期				試験方法	試 験 値 及 び 試 験 内 容	最 小 保持時間	備 考									
		配 管 途 中	隠ぺい 前	埋戻し 前	配 管 終了後													
・ 1	給水装置に該当する管	○	○	○	○	水圧試験	1.75MP a 以上	60分	水道事業者の試験圧力の規定がある場合はそれによる。									
・ 2	揚水管等のポンプに直結する配管	○	○	○	○	水圧試験	当該ポンプの全揚程に相当する圧力の2倍 (ただし、最小0.75MP a)	60分										
・ 3	高置水槽以下の配管	○	○	○	○	水圧試験	静水頭に相当する圧力の2倍 (ただし、最小0.75MP a)	60分										
・ 4	給 湯 管	○	○	○	○	水圧試験	上記1、2、3に準ずる。	60分										
・ 5	さや管ヘッダー配管	○	○		○	水圧試験	<table><tr><td>管 種</td><td>初 圧</td><td>60分後</td></tr><tr><td>架橋ポリエチレン管</td><td>0.75MP a</td><td>0.45MP a 以上</td></tr><tr><td>ポリブテン管</td><td>0.75MP a</td><td>0.55MP a 以上</td></tr></table> 〔注〕継手部分の漏水の有無を目視確認する。	管 種	初 圧	60分後	架橋ポリエチレン管	0.75MP a	0.45MP a 以上	ポリブテン管	0.75MP a	0.55MP a 以上	60分	60分後に規定の圧力以下 の場合は再試験を行う。 再試験は、共通仕様書に よる。
管 種	初 圧	60分後																
架橋ポリエチレン管	0.75MP a	0.45MP a 以上																
ポリブテン管	0.75MP a	0.55MP a 以上																
・ 6	排水管(屋外埋設管以外)		○	○	○	満水試験 煙 試 験	刺激性の濃煙 250 P a	30分 15分	原則、埋戻し前又は最小限 の埋戻しで行う。									
	排水管(屋外埋設管)			○		満水試験		30分										
・ 7	排水ポンプ吐出管				○	水圧試験	当該ポンプの全揚程に相当する圧力の2倍 (ただし、最小0.75MP a)	60分										
・ 8	各消火ポンプに連結 される消火配管		○	○	○	水圧試験	当該ポンプの締切圧力の1.5倍	60分										
・ 9	各種送水口に連結 される消火配管		○	○	○	水圧試験	配管の設計送水圧力の1.5倍又は1.75MP a の いずれか大なる圧力 (7と兼用兼用される配管 は7又は8のいずれか大なる圧力)	60分	連結送水管送水口等									
・ 10	不活性ガス消火配管		○		○	気密試験 (空気又は 窒素)	貯蔵容器から選択弁までは10.8MP a 選択弁から噴射ヘッドまでは最高使用圧力 (選択弁を設けない場合、貯蔵容器から噴 射ヘッドまで最高使用圧力)	10分										
・ 11	粉 末 消 火 配 管				○	気密試験 (空気又は 窒素)	貯蔵容器から選択弁までは2.5MP a 選択弁から噴射ヘッドまでは最高使用圧力 (選択弁を設けない場合、貯蔵容器から噴 射ヘッドまで最高使用圧力)	10分										
・ 12	冷温水管、冷却水配管		○		○	水圧試験	最高使用圧力の1.5倍 (ただし、最小0.75MP a)	30分										
・ 13	蒸気配管、高温水管		○	○	○	水圧試験	最高使用圧力の2.0倍 (ただし、最小0.2MP a)	30分										
・ 14	油 管	○	○	○	○	空気圧試験	最大常用圧力の1.5倍	30分										
・ 15	冷 媒 配 管		○		○	気密試験 (空気又は 不燃性 ガス)	<table><tr><td>冷媒ガスの種類</td><td>気密試験圧力</td></tr><tr><td>R 2 2</td><td rowspan="4">工事監理指針による</td></tr><tr><td>R 1 3 4 a</td></tr><tr><td>R 4 0 7 C</td></tr><tr><td>R 4 1 0 A</td></tr></table> 〔注〕(1) 試験に使用するガスは、窒素ガス、炭酸 ガス又は乾燥空気とする。 (2) 試験終了後、ガスをバージし、真空乾燥 を行う。絶対圧力が-0.1MP a 以下になっ てからさらに15分以上真空引きし、密閉放 置して漏れないことを確かめる。 (3) 配管に冷媒を充填し、運転開始後にガス 検知器を使用して配管の接続部を点検し、 冷媒の漏洩のないことを確認する。 (4) 屋内機と屋外機の連絡配線は、施工後、 絶縁抵抗試験、動作試験を行う。	冷媒ガスの種類	気密試験圧力	R 2 2	工事監理指針による	R 1 3 4 a	R 4 0 7 C	R 4 1 0 A	外部に発 泡液を塗 布して漏 れのない 事。 その後24 時間放置 して漏れ のない 事。	周囲温度変化による圧力変 化の補正を行う。		
冷媒ガスの種類	気密試験圧力																	
R 2 2	工事監理指針による																	
R 1 3 4 a																		
R 4 0 7 C																		
R 4 1 0 A																		
・ 16	住宅用暖房配管				○	水圧試験	住戸内 0.15MP a (ただし、温水コンセント接続後は0.1MP a) 住戸内以外 静水頭に相当する圧力の2倍 (ただし、最小0.75MP a)	30分										
・ 17	通 水 試 験				○	通水試験	・ 給水設備～水栓器具等取付後、各々全開又は作動 させ、吐出水が清澄となるまで行う。 また、飲料水配管の場合は、末端にお いて、遊離残留塩素濃度が0.2 p p m 検出されるまで消毒を行う。 ・ 排水設備～衛生器具等取付後、行う。 ～空調用ドレン管にも適用する。 ・ 通水試験後、衛生器具等の水量調整を行う。 ・ 給湯設備～給水設備に準ずる。											
・ 18	水 質 試 験				○	簡易試験 (9項目)	塩素イオン、有機物等(過マンガン酸カリウム消費 量)、一般細菌並びに大腸菌群、P H値、臭気、味、色 度、濁度		福島県給水施設等条例並び に(各)市町村給水施設等 条例									
・ 19	揚水用ポンプ、小型給水ポンプ ユニット、給湯用循環ポンプ 水道用直結加圧形ポンプ ユニット				据 付 完了後	水圧試験	JIS B8301「遠心ポンプ、斜流ポンプ及び軸流ポンプ ー試験方法」による。 1.75MP a	1分	水道事業者の試験圧力の規定 がある場合はそれによる。									
・ 20	塩 素 滅 菌 装 置				据 付 完了後	動作試験	注入及び停止をそれぞれ手動、自動運転で10回以上 行い、異常の有無を検査する。											
・ 21	水 槽 類				○	満水試験	満水状態で12時間以上放置し、漏水の有無を検査す る。飲料用の場合は、次亜塩素酸ソーダ溶液等により 消毒を行う。	12時間										

1. 給排水・衛生・暖冷房・空調設備

項 目		試 験 時 期				試験方法	試 験 値 及 び 試 験 内 容	最 小 保持時間	備 考
		配管途中	隠ぺい前	埋戻し前	配管終了後				
・ 22	銅 製 ボ イ ラ ー				据 付 完了後	水圧試験	・ 最高使用圧力が0.42MP a 以下のものは、最高使用圧力の2倍 (ただし、最小0.2MP a) ・ 最高使用圧力が0.42MP a を超え1.5MP a 以下のものは、最高使用圧力の1.3倍に0.3MP a を加えた圧力 ・ 最高使用圧力以上の圧力を受けるおそれのない温水ボイラーは、最高使用圧力に0.1MP a を加えた圧力 (ただし、最小0.2MP a)		
・ 23	鑄鉄製ボイラー				据 付 完了後	水圧試験	・ 蒸気ボイラーは、0.2MP a ・ 温水ボイラーは、最高使用圧力の1.5倍 (ただし、最小0.2MP a) ・ セクションは、最高使用圧力が0.2MP a 以下のボイラーは0.4MP a、最高使用圧力が0.2MP a を超えるボイラーは最高使用圧力の2倍		
・ 24	真空式温水発生機				○	気密試験	窒素ガス又はヘリウムガスによる漏れ試験とし、漏れ量は2.03Pa・mL/sec (大気圧換算値) 以下		
・ 25	無圧式温水発生機				○	満水試験		30分	
・ 26	鑄鉄製温水発生機				○	水圧試験	セクションの試験圧は0.6MP a	10分	
・ 27	温水発生機に組込む熱交換器				○	水圧試験	最高使用圧力に0.1MP a を加えた圧力 (ただし、最小0.2MP a)		
・ 28	冷 凍 機				○	水圧試験	設計圧力の1.5倍		冷水及び冷却水系路
・ 29	遠 心 冷 凍 機				○	気密試験	真空95 k P a とし、真空降下は12時間に対して1時間当たり50 P a 以下		運転中の低圧部圧力が大気圧以上となる冷媒を使用するものを除く
・ 30	吸収冷凍機 直置き吸収冷温水機 小形直置き吸収冷温水機ユニット				○	気密試験	窒素ガス又はヘリウムガスによる漏れ試験とし、漏れ量は2.03Pa・mL/sec (大気圧換算値) 以下		
・ 31	空気調和機の冷水、温水及び蒸気コイル				○	気密及び耐圧試験	空気又は窒素ガス試験とし、試験値は1.0MP a	10分	
・ 32	ファンコンベクター コンベクター ベースボードヒーター パネルラジエーター				○	気密及び耐圧試験	空気又は窒素ガス試験とし、試験値は最高使用圧力の1.3倍 (ただし、最小0.5MP a)		
・ 33	貯 湯 タ ン ク 熱 交 換 器 ヘ ッ ダ ー				据 付 完了後	水圧試験	最高使用圧力の1.5倍に温度補正を行った圧力 $P_a = P \times \sigma_n / \sigma_a$ P_a : 補正された試験圧力又は気圧試験圧力 P : 補正前の試験圧力又は気圧試験圧力 σ_n : 試験時の温度における材料の許容引張応力 σ_a : 使用温度における材料の許容引張応力		
・ 34	密閉形隔膜式膨張タンク				据 付 完了後	水圧又は気密試験	使用圧力の1.3倍以上		
・ 35	地下オイルタンク				据 付 完了後	水圧試験	70 k P a 以上	10分	

2. 浄化槽設備

項 目		試 験 時 期				試験方法	試 験 値 及 び 試 験 内 容	最 小 保持時間	備 考
		配管途中	隠ぺい前	埋戻し前	配管終了後				
・ 1	槽 類				工 事 完了後	満水試験	満水状態で24時間以上放置し、漏水の有無を検査する。	24時間	
・ 2	汚水管及び汚泥管	○		○		満水試験		30分	
・ 3	ポ ン プ 吐 出 管			○	○	水圧試験	最小圧力0.75MP a	60分	
・ 4	消 泡 管	○		○	○	通水試験			
・ 5	空 気 管	○	○	○	○	気密試験	最高使用圧力の1.1倍	60分	

3. ガス設備

項 目		試 験 時 期				試験方法	試 験 値 及 び 試 験 内 容	最 小 保持時間	備 考
		配 管 途 中	隠 べ い 前	埋 戻 し 前	配 管 終 了 後				
・ 1	都 市 ガ ス	○	○	○	○	気密試験 点火試験	最高使用圧力の1.1倍以上 ガスメーター取付後、管内空気を排出して行う。	供給会社 規 程	ガス事業法に定める技術 基準及びガス供給事業者 の供給約款
・ 2	液 化 石 油 ガ ス	○	○	○	○	気密試験	不燃性ガス又は不活性ガスを使用し、 高圧側1.56MP a、低圧側8.4 k P a 以上10.0 k P a 以下	供給管等の内容積	
								10L以下	5分
						点火試験		10L～50L	10分
								50L超過	24分
						気密試験終了後、管内の空気をガスと入れ替え、 指定の圧力に調整された調整器を取付後に行う。			

※水圧・気密・空気圧試験等は、試験中の圧力状態が分かるようにチャート紙に記録することが望ましい。
※本一覧表に記載無き項目は、「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）」による。



福島県建築関係工事特記仕様書

福島県〇〇建設事務所建築住宅課
電話〇〇〇-〇〇〇〇 FAX〇〇〇-〇〇〇〇
住所 〇〇市××町△△△1-1

設計年:令和〇〇年〇月

建築士事務所名

設計者氏名

工事名称

印

図面名称

機械設備工事試験内容一覧表

図面番号